

活動を支えるボランティアの人たち 6月5日、大阪市西淀川区



公助 今こそ

相談活動の様子 6月5日、大阪市西淀川区



回を重ねることに取り組みの広がりを
見せるのが、大阪市内の西淀川フ
ードバンク(食料無料市場)です。来場者
は4回でのべ1700人に迫ります。
6月5日に実施された第4回は、来場
者550人(子ども含む)、ボランテ
ィアのべ150人が参加。うち339
人が記載した来場者アンケートの結果
について、西淀川フードバンク実行委
員会の團部建史さん、矢野正之さんは、
日常的な支援の重要性を力説します。
(大阪府・森尾町子)

「無職」の3割は30代
「収入減った」半数超

クローズアップ

大阪・西淀川「フードバンク」参加者調査

第1回は今年1月24日
に実施され、200人が
来場。以降、受け付け名
簿やアンケートでつな
がった連絡先への電話案内
が毎回行われます。チ
ラシの区内全戸配布、S
N Sでの拡散など、本
当に生活に困っている人
に情報を届けています。
子ども食堂2団体に呼
びかけた効果もありま
した。第2回500人、
第3回430人が来場し
ました。

アンケート結果によ
ると、70代以上の参加
者が最も多く、女性7割
、男性3割、西淀川
区内居住者が9割を占
めています。第4回は
非正規雇用の割合が増
加。無職と回答した人
のうち29%が30代と
、生活基盤が悪化した若
年層が増えています。
コロナ禍で収入が減っ
たと回答する人が半数以
上。収入が安定している
と考えられる正規雇用
でも、半数近くが減った
と回答しています。
約7割が現在困ってい
ることがあると回答。困
っている内容として「お
金のこと」という回答が
最も多く、特にひとり親
世帯の困窮がうかがえま
す。次いで「精神的なこ
と」「健康状態のこと」
と続きます。

■ 餓死事件

きっかけは、昨年末に
大阪で相次いで起こった
餓死事件でした。日常的
に支援の手が届かず「助
けて」と言えない人た
ちにつながりたいという
強い思いから、区内の幅
広い労組・団体、個人な
どの参加を得て、実行委
員会が結成されます。「社
会的フードバンク」実現
の根幹には「いのは平
等」との視点があります。
企画をSNSで知り、
住之江区から自転車で2
時間半かけて来た男性は
「派遣が切られ仕事が激
減。いたただくだけでは
申し訳なく少しでも役に
立ちたい」とボランティア

として手伝います。

第1回から第3回まで
の会場となった西栄寺の
協力や、地元企業や市民
生協などの賛同・協力も
活動を支えます。多数の
支援物資やカンパ総額2
00万円余が集まりました。

■ 地域密着

第4回は、地域の町会
を巻き込むことで「西淀
川地域振興会共催」と
して、会場に「もと歌鳥
橋パスターミナル」とい
う公共施設を借りること
ができました。矢野さん
は、西淀川で規模が大き
くなった理由を「地域密
着がポイントです」と語
ります。

團部さんは「相談活動
を位置付けたことも強
みです」と指摘。健康・生
活・労働・法律などの相
談活動、外国人来場者の
ための5カ国語対応、無
料低額診療の相談も行わ
れ、生活保護申請につな
がったこともありました。

「お互いさま」の共
助とともに重要なのは、
公助や社会保障の拡充で
す」と團部さんは強調し
ています。